栃幼時報
題字／栃木県知事　福田富一 氏
第135号
平成30年12月20日
一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／伊沢　信恭　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ　http://www.youchien.or.jp

こどもがまんなかPROJECT

第25回 ピカピカの栃木県

平成三十年十月十三日（土）～十一月三日（土）

第二十五回ピカピカの栃木県（公共施設美化十万人運動）が、十月十三日（土）から十一月三日（土）の三週間にわたり実施されました。

これは栃木県幼稚園連合会と栃木県幼稚園PTA連合会が共催し、園児・保護者・教職員が一緒になって地域の環境美化に取り組み、「家族のあり方」「環境」「公共心」などについてみんなで考えるため、毎年この時期に実施している活動です。

平成最後となる今回も、県内の身近な公共施設を中心に、ゴミや空き缶拾い・草取り・落ち葉拾い等に、県内の多くの幼稚園・認定こども園が参加しました。

環境美化に取り組む園児達。その小さな手で集めてくる量はわずかずつです。

しかし、落ち葉一枚拾えば一枚分、確実に栃木県が綺麗になりました。小さな手で力を合わせて、みんなでゴミを集めるとそれなりの量が集まり、栃木県を、いや日本を、大袈裟に言えば世界をきれいにすることができました！

集めたゴミを前に物知り顔の年長さんが、空き缶とペットボトルを仕分けたり、落ち葉と紙ゴミ、小石などを分別してくれました。

幼児でさえ分別収集を当たり前にこなすなんて、普段から家庭でも環境問題に取り組んでいる表れ。関心の高さを垣間見ることができました。

また、自ら進んで汗を流し（主体的）、友達と協力しながら分別し（対話的）、環境美化のためにはどうしたら良いかを考えること（深い学び）はまさしく、改定された幼稚園教育要領や、こども園教育・保育要領で示すところのそれであろうと思います。

ゴミを拾う小さな手が少しずつ大きくなる様に、地域を愛する心、環境へのマナー、公共心も大きく育って欲しいと願います。

総務委員長　富川　将

（画像は小山地区　静林幼稚園）

参加園 127園
参加人数 19,736名

各園の取り組み

宇都宮地区 認定すずめこども園

期日　十月三十一日（水）
場所　なかよし広場
参加人数　園児・保護者・教職員　百七十八人

気持ちの良い晴天の中で実施できた。

芳賀地区 高ノ台第二幼稚園

期日　十一月一日（木）
場所　幼稚園周辺道路から西郷第二地域運動公園まで
参加人数　教職員　保護者　園児　六十一名

最寄りの公園までの道路周辺のゴミ拾いをした。

足利地区 足利短期大学附属幼稚園

期　日　十月二十九日（月）
　　三十一日（水）
場　所　朝倉公園
参加人数　園児百三名　教職員十一名

可燃・不燃ゴミや落ち葉拾いなどの清掃することで公園がきれいになったことの気持ちよさを感じられたようだ。

佐野地区 認定こども園 佐野たちばな幼稚園

期　日　十一月二日（金）
場　所　佐野市こどもの国
参加人数　園児百五十名　保護者三十名
　　職員十名

いつも園外保育等で遊ばせていただいている佐野市こどもの国の庭を園児みんなでピカピカにお掃除してきました。また元気にあそぶぞー

栃木地区 認定こども園 大平みなみ幼稚園

期　日　十一月三日（土）
場　所　幼稚園周辺の公園
参加人数　園児八十七名　保護者八十九名
　　職員九名　計百八十五名

いつも散歩で利用する園周辺の公園のゴミ拾いを行った。

小山地区 せいほう幼稚園

期　日　十月二十七日（土）
場　所　園舎前の公道
参加人数　園児二十名・保護者二十五名
　　教職員六名・その他十二名

歩きながらゴミ拾いすること１時間。あまりのゴミの多さに、みんなびっくりしていた。

鹿沼地区 認定こども園 いずみ幼稚園

期　日　十月十八日（木）
場　所　千手山公園
参加人数　園児、保護者、教職員
　　百五十六名

『今年も皆でピカピカにお掃除しよう！！』千手山公園清掃が恒例になった。園児も保護者も教職員も汗をかきながら一生懸命取り組んだ。

日光地区 認定こども園 清滝幼稚園

期　日　十月十八日（木）
場　所　園から大日堂跡まで
参加人数　園児十六名　祖父母十名
　　職員二名

おじいちゃんおばあちゃんたちと手をつなぎ、会話を楽しみながらゴミ拾いができた。

塩谷地区 認定こども園 烏山みどり幼稚園

期　日　十一月二日（金）
場　所　並松公園他
参加人数　園児・教職員　八十七名

毎年、園外保育で利用させていただいている公園のごみ拾いなどの清掃活動を行った。

那須地区 すぎのこ幼稚園 認定こども園

期　日　十月二十三日（火）
場　所　大田原　ふれあいの丘
参加人数　園児・教職員　三十五名

大田原ふれあいの丘で園児と教職員がゴミ拾いをした。
広い公園で各自ゴミ袋をもってベンチの裏など見えないところまできれいにした。

研修会だより

第三十四回全日本私立幼稚園連合会設置者・園長全国研修会

期日　平成三十年十月二十二日(月)～二十四日（水）
会場　ホテル東日本宇都宮
参加　五百六十三名（うち栃幼連加盟園からは七十三名）
メインテーマ
「明日にむけて幼児教育の振興を考える」

《一日目》

●開会式

全日本私立幼稚園連合会　香川敬会長より、「栃木県大会で我々は、化学変化をしなければならない。我々は、更に社会に開かれた幼児教育と、総合的な観点での質の向上をさらに目指さなくてはならない」と挨拶をいただいた。その後、栃木県幼稚園連合会　石嶋　勇理事長より「有意義な研修になるとともに、栃木を楽しんでくださるよう願っている」との歓迎の挨拶が述べられた。

●記念講演

『昨日の自分より一歩前へ
～卓球から学んだ挑戦することの大切さ～』

講師　平野　早矢香 氏（ロンドン五輪卓球女子団体銀メダリスト）

●行政報告

「幼児教育を取り巻く現状と課題」

講師　文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長　先崎　卓歩 氏

●幼稚園ナビ（アプリ）報告

「幼稚園ナビを業界のインフラに」
～幼稚園ナビで変わる幼稚園業界の人材獲得とキャリアプラン～

講師　㈱会社ブラテック代表取締役　岩崎　正明 氏

《二日目》

●研究講座（参加者が一講座選択）

研究講座㈠教育
『幼児教育の資質向上をめざして
～園内研修をてがかりにして～』

講師　（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長　東　重満 氏

研究講座㈡振興
第一部『無償化にかかる私学助成園の諸課題と対策』
第二部『私学助成園の処遇改善と私学助成金の増額を目指して』

研究講座㈢経営
『人材確保～幼稚園ナビならびに各地域での教員採用事例を踏まえて』

研究講座㈣認定こども園
『認定こども園として無償化にどう備えるか?』

講師　来年十月より幼児教育・保育の無償化がスタートをすると言われている。今回の設置者・園長全国研修大会では、この無償化はどの分野でも取り上げられていた。私学助成の幼稚園、施設型給付の幼稚園、認定こども園の幼稚園、それぞれ直面する課題は数多くあるだろう。

我々を取り巻く環境は変化していくが、質の高い保育を維持し、子ども達の明るい未来を目指していかなければならない。今、幼児教育・保育は大きな局面を迎えている。

設置者・園長経営研修会

期日　平成三十年九月十三日（木）
会場　コンセーレ（アイリスホール）
参加　百十四名
テーマ「これからの幼児教育の展望」
～園の安定経営のために～
講師　㈲遊育代表取締役
㈱保育システム研究所代表取締役
吉田　正幸 氏

プロローグとして少子高齢化・人口減少社会の到来、子ども環境の劣化、子どもに関わる政策の変化等保育を取り巻く状況の変化についての話に続き、〝0号認定〟から捉えた新制度のイメージ、実施主体である市町村の状況、拡がる私学助成園と新制度移行園の公費格差等の新制度施行後の状況について説明があった。今後の展望として子ども・子育て支援制度の見直し（二〇二〇年度から実施）、第二期市町村事業計画の策定・実施（二〇二〇年度から五年間）、幼児教育・保育の無償化（二〇二〇年度から全面実施）、企業主導型保育事業の特徴と課題等についての話に続き、問われる幼児教育の質と保育者の資質向上、私立幼稚園から捉えた今後の課題、認定こども園の可能性と役割等について講話があった。本講演は、過去、現在、未来の国や社会の動きから今後各園がどういった方向へ向かうべきであるのか助言を交えた内容であった。参加者は、各自、今後の園の進むべき方向性についてのヒントになったのではないだろうか。

青年部県外視察研修会

九月十八日、沖縄県宮古島市の「はなぞのこどもえん」「みつば幼稚園」の二園にて視察研修と交流会を実施した。はなぞのこども園は新制度と共に幼稚園から幼保連携型に移った園であり、みつば幼稚園は私学助成幼稚園である。

宮古島市は人口約五万五千の小さな島であるが、私立幼稚園一園と私立認定こども園一園、公立幼稚園十二園、公立保育所八園、私立保育園十八園、小規模七園と、子育て施設激戦区である。また、今回伺った二園は貴重な私立幼稚園系の二園である。

場所は違えど園の悩みどころは似たようなもので、経営面では人材確保と職員育成、子ども面ではきれいな海に囲まれながらも海に入らないことや、暑さに弱い子が増えていることなど、子どもの体力低下などが話題に上がった。

研修の最後に両園の園長先生から「日々の記録を要録につなげて～子どもの良さと可能性の発揮～」の言葉が印象的だった。宮古島には連合会相当の組織がなく、青年部として研鑽・研修の場、幼児教育や園経営について話し合える仲間が居ることを非常に羨ましく思える、と。

第三回　保育セオリー講座

期日　平成三十年十月二十九日（月）
会場　コンセーレ（大ホール）
参加　百五十一名
テーマ　『日々の記録を要録につなげて～子どもの良さと可能性の発揮～』
講師　前東京都教職員研修センター研修指導員　**大竹　節子**氏

◎研修の流れ
㈠DVD視聴と解説・DVD視聴しながら、必要事項を記録
㈡子どもやクラスの変化に気づき、数人でグループトーク（演習）＝数名の発表＝
㈢PPを見ながら配付資料の確認
㈣まとめ
十の姿や各領域のねらいを全部網羅する必要はない。まず、子どもの声に耳を傾けて、個々の成長を見つめて（可能性の発揮がある？）、記録してみる。そして何らかの視点に当てはめてみる。子どもの育ちに基準を持ってみることで、次の担任・保護者・そして小学校にも伝えやすい要録が、仕上がるのではないか。

ひとくちメモ

日々の記録や要録そのものの記載に苦労しがちな、現場の教師たちに対して、分かりやすい資料と説明でいただいたことで、目の前のもやが消え去ったような感覚を持つことができた。この研修内容が各園に伝わることで、一人ひとりの園児の成長等が、きちんと次に伝わる要録記述がなされるのではないだろうか。

第三十二回全日本幼稚園連合会関東地区代表者協議会　群馬大会

期日　平成三十年十一月六日（火）～七日（水）
会場　ホテルメトロポリタン高崎
参加　関東地区会・神奈川地区会加盟県から　百二名（栃幼連十二名、県行政官一名）

設置者・園長経営研修会

期日　平成三十年十一月十三日（火）
会場　ホテルニューイタヤ
参加　九十二名
テーマ　園経営の転換点～〝先生〟がいる園になろう～
講師　採用・定着・育成が園経営の要　Eリソースセンター株式会社代表取締役　**石田　敦志**氏

ひとくちメモ

新制度に移行して三年半が経過した。転換点を迎え、認定こども園等が増えたことに伴う職員不足に加えて、処遇改善など様々な変化に頭を悩ませる今日。政府が打ち出した保育料無償化という更に大きな変化に、我々はより一層の対応を強いられている。そこで、いかにして園経営を行うことがこれからの時代に最も適しているかという点について、自身も三つ子を幼稚園に通わせた経験を持つ石田氏に話を聞いた。

冒頭、現代の大きな問題の一つである少子化についての話が上がった。少子化という言葉だけを見れば、現在の、そしてこれから入園してくるであろう将来的な園児の減少に目を向けがちであるが、長期的に見れば、先生の減少につながるとなるほど、子どもが減れば、将来幼稚園教諭になろうと希望する人数も必然的に減少する。そこに拍車をかけるのが、小規模保育や企業型保育等の参入だ。認定こども園では、制度的に教職員数が重要であるため、更に配置することが求められる。

そこで、今回の話である園経営の転換点だ。園の教育内容、施設設備等ももちろん重要だが、これからはその園を体現する先生こそ重要と石田氏は説く。いかに良い教育を実施していても、ホームページ等で内容を紹介していても、保護者に共感・発信してもらわなければ、園児獲得につながらない。いかに少なくなっていく人材を確保し、園の教育内容を園児から保護者に伝達できるように指導するか、そのためにこれから経営者がするべきことを示してくれた。

労働時間等、働く環境も現代の問題の一つにだが、教育現場ではその点も問題であることは周知だ。そこで経営者は、園の業務を見直し、I

CT化を進め、労働環境を改善することが一つの解決策という。園では連絡帳など、必要ではあるものの先生の負担になっている業務は様々ある。そこで、教育内容の発信のために厳選し、できた時間をより良い保育のために利用する。それを園児に伝え、保護者に共感を得、そこから新たな園児獲得へと繋げる。他方、目を引く労働環境をアピールし、採用を増やし、更に良い労働環境を作りあげ、園児により良い保育を提供する。こうしたサイクルに転換させていかなければならない。

この話は、時代に即した転換なのかもしれないものの、すぐには受け入れがたい話だ。しかし、保育料無償化、少子化等、迫る難題に直面している我々は適応していく必要がある。古き良き、も大切だが、確実に到来する問題に、柔軟に対応することも肝要だ。迫る師走に難題は酷だが、少しずつでも転換への方策を考えていきたい。

資質向上研修

期日　平成三十年十一月十四日（水）
会場　氏家幼稚園
参加　六十八名
内容　公開保育・グループ討議

ひとりメモ　広い園庭、広い遊戯室が特徴的な氏家幼稚園では、遊びの中から、たくさんのことを学びこどもの主体性を伸ばす教育方針をとっている。

午前の公開保育では、あらかじめ希望を出したクラスの自由遊びの様子を見学した。子どもたちが自由にごっこ遊びを展開できるコーナーがどこの部屋にも設

営されており、今日はこれで遊ぶというねらいが見られ、年少・年中・年長クラスそれぞれが時間に縛られることなく自由に時間を使い、廃材を楽器に見立てて遊んだり木の実を使ってお店屋さんごっこをしたりと自由な発想で遊ぶ様子が見られた。お友だちと工夫したり協力したりと次々と遊びを創造していくこどもたちの姿が印象的だった為か、他の学年に足を運ぶ参加者の姿も多く見られた。

午後の部では、見学したクラスごとのグループにわかれ公開保育の気付いたことや感じた点について活発な意見交換がなされた。その後の全体会では、討議したことを発表しあい各自の保育と照らし合わせた。今回の研修で得たことをヒントに自身の保育を見つめ直し、明日からの保育に生かしていけることだろう。

第三回保育テクニカル講座

期日　平成三十年十一月十六日（金）
会場　コンセーレ（大ホール）
参加　百十七名
内容　「子どもと作る　おもしろバルーン」
講師　バルーンパフォマー　南　小百合　氏

ひとりメモ　まずは、講師である南小百合先生によるバルーンアートショーで始まったこの研修。軽快なリズムにのってみるみる形作られていくパフォーマンスに、会場全体がわくわくドキドキしながら、バルーンアートの世界に惹きこまれていった。

受講者たちも自然と笑顔になり子どもに戻ったような気持ちで手拍子やレスポンスをして楽しんだ。

後半は、バルーンアートの実技へと移った。受講者の中にはバルーンアート初体験という者も多く、会場のあちらこちらで風船の破裂音が鳴り響いた。それでも繰り返し挑戦することで一人ひとりが個性豊かな作品を完成させることが出来た。

バルーンは、子どもが直接触れて楽しめるものから、行事等の装飾として使えるものまで多種多様であることを知った。限られた時間ではあったが、たくさんの作品をご紹介いただいたので、今後は保育室などを華やかにするアイテムの一つとして取り入れていけるだろう。

平成三十年度 第四十五回 栃木県放送・視聴覚教育研究大会那須地区大会

期日　平成三十年十一月二十日（火）
会場　認定こども園那須幼稚園　那須町文化センター
参加　幼稚園　十六名
内容　公開保育（幼稚園）　講演会（センター）

ひとりメモ　栃木県放送・視聴覚教育研究大会那須地区大会は、那須町の幼稚園、小学校、中学校、高等学校が視聴覚に関する機材を使い、保育、授業を行う様子を公開している。その中で、幼児教育を代表して那須幼稚園が公開保育を実施した。

内容は、NHKラジオ第二放送で放送されている「お話出てこい」の中で「はれときどきぶた」をカセットデッキに録音し、その音声を使い年中組で絵を描く活動を行った。

午前中も聴き、午後に印象に残った場面を描く活動である。

音声を聞きながら描くというのは子ども達にとって難しいと感じたが、思い思いに描く姿は年中と思えないしっかりしている印象をえた。担当の先生は、お話しのポイントなど伝えながら絵の指導をしていた。時間になり子ども達の絵に対して一つ一つ感想を言い、最後に「みんな違ってみんないい」と伝えていたのがとても良かった。

この活動は、大会に向けて時間のない中で進められたが落ち着いて活動ができ、普段からの指導が行き届いているように感じた。

保育をみた各園の先生方も絵本や紙芝居など視覚から入り、絵を描くなどの活動はしているが聴覚から想像して描くのはとても興味を持ったという意見が多かった。

この公開保育で放送・視聴覚教育が広がる事を期待する。

午後は、会場を那須町文化センターに移し、記念講演を行った。講演一は、NHK放送文化研究所メディア研究部主任研究員の宇治橋祐之氏による講演「デジタル時代の学校教育とメディア」である。小学校でデジタル機器を使っての授業やNHKのホームページを利用して授業を行うなどについて話があった。

講演二はNHK放送文化研究所メディア研究部副部長の吉川邦夫氏による講演「大河ドラマ時代考証と歴史教育」である。大河ドラマを通じての歴史そしてその番組を面白くする企画の裏話をわかりやすく説明してくれた。

栃木県放送・視聴覚教育研究大会那須地区大会は、普段の活動と違い、新鮮に見ることができた。

平成３１年度　予算要望書

団 体 名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長　石嶋　勇

要望事項等	継・新の別	要望事項 現行	要望事項 要望
【要望1】幼稚園運営費補助金・幼稚園教材費等補助金の増額 運営費補助金の増額は、幼稚園経営の安定を図り、教育環境の充実を実現します。国に準じて増額を確保するとともに、県単補助金については、茨城県（¥13,422、対比△8,622）や群馬県（¥15,538、対比△10,738）と肩を並べられるよう増額を要望します。 １０２条園対象の教材費等補助金について、地域の幼児教育の存続を図るために、増額を要望します。	継続	園児１人当たり 189,700円 国庫補助 23,688円 地方交付税161,200円 県単補助 4,800円	園児１人当たり 195,172円 国庫補助 23,972円 （予定額） 地方交付税161,200円 （予定額） 県単補助 10,000円
	継続	教材費等補助金 園児１人当 39,100円	教材費等補助金 園児１人当 50,000円
【要望2】子だくさん応援　多子世帯保育料免除事業費の創設 栃木県では、平成28年度に第３子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄姉から数えて第３子以降の子どもの保育料が無償化となり、転入者の増加につながりました。要望２は、この第３子保育料免除事業費を「子だくさん応援　多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。来年10月から国の政策として幼児教育の無償化（３～５歳）が実施されますが、それに先んじて、４月から「18歳未満の子どもが３人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何番目の子どもであるかにかかわらず、０～５歳の保育料を無料にする」というものです。子だくさんの世帯を応援するメッセージが明確に伝わる事業であり、３人目を産もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、国・他県に先んじた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールしていただくことを要望します。	新規 発展的継続	第３子以降保育料免除	３人いれば保育料免除 →転入者増加 →もう一人！促進
【要望3】特別支援教育費補助金制度の見直しと増額 現行制度では、対象児が2人の場合は1,568,000円となりますが、1人の場合は392,000円と1／4になってしまいます。この補助額では教職員を加配して対象児に必要な教育的援助を行うことは不可能です。 国庫補助の対象とならない「対象児が1人の場合」「学法立以外の園の場合」であっても、県単補助による国庫補助と同額の補助金を要望します。 また、１号園児と同じ教育的援助を受ける２号園児に対しても、特別支援教育費補助金の対象としていただくことを要望します。	継続	・学法で２人以上在籍 1人当たり 784,000円 （国庫補助） ・それ以外 1人当たり 392,000円 （県単補助）	・学法で２人以上在籍 1人当たり 784,000円 （国庫補助） ・それ以外 1人当たり 784,000円 （県単補助）
	新規		・2号園児 392,000円 （県単補助）
【要望4】子育て支援事業等に対する補助金の充実 ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。幼稚園が行う預かり保育に対する一層の支援を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	増額
②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として機能を発揮できるよう、さらなる支援を要望します。	継続	子育てランド事業	増額
③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強、等にかかる費用の助成を要望します。	継続	幼稚園耐震化事業費	増額
【要望5】「栃木県私学団体補助金」の継続と一本化 「栃木県私学団体補助金」は、栃幼連が実施する研修会に対する補助金として、「栃幼連補助金」と「幼稚園特別研修費補助金」の二本立てとなっています。教職員の資質向上は直接保育の質に関わる重要な要素です。栃幼連は、認定こども園における0･1･2歳担当保育教諭等に対する研修を含めた研修体系を実施しておりますが、対象・回数の増加に伴う予算措置に頭を悩ませているところです。つきましては、新制度対応として使途制限のある「幼稚園特別研修費補助金」を「栃幼連補助金」へ一本化し、総額600万円として継続いただきますよう要望します。	継続	栃幼連補助金 3,000千円 幼稚園特別研修費補助金 3,000千円	栃幼連補助金 6,000千円 →幼稚園教諭･保育教諭のさらなる資質向上

●平成31年度　予算要望書について

来年10月からの幼児教育無償化を見据え、来年度に向け下記の要望書を11月22日に自民党政策懇談会、12月14日に福田知事、県議会議長五十嵐議長に提出させていただきました。

（要望１）運営費補助金については県単補助部分の増額を強く求めました。
（要望３）特別支援教育費補助金については国庫補助対象外児に対する県の対応を求めました。
（要望５）栃幼連への研修費補助金については、その一本化を求める内容としました。
（要望２）平成29年度から引き続き、子どもが３人以上いれば全員保育料免除にするという「子だくさんを応援する栃木県」のイメージを強くアピールするため消費税が増税される前に来年４月から実施されることを強く求めました。
（要望４）その他の子育て支援事業等への補助金について継続と増額を求めました。
「栃木県で子育てしたい」転入者増加を切に願うものである。

（振興委員長　山越 忍隆）

幼児教育センターだより

日頃よりセンター研修を受講していただき感謝申し上げます。さて、各研修もいよいよ後半戦を迎えましたので、その一端をご紹介します。

幼稚園等教職五年目研修 第二日を実施しました

十月十六日に、宇都宮大学教育学部附属幼稚園で幼稚園等教職五年目研修第二日を実施しました。午前中は、「幼児とものとの関わり」をテーマに、全学年の保育参観と保育研究を行いました。子どもがものに関わって遊ぶ姿から、教材のもつ意味について考察しました。午後は、同園の五十嵐市郎副園長より講話をいただくとともに、「環境を構成する際の教材の工夫」について協議しました。子どもの発達を見通して教材を精選していくことの大切さや、教材研究を進める際の視点などについて学びを深めました。

一日を通して「発想を柔軟にして教材を工夫していきたい」「保育に下ろした教材がねらいとどう関係しているのかを考えていきたい」などの感想が寄せられ、今後の保育に生きる実りがたくさんありました。

中堅幼稚園教諭等資質向上研修 第五日を実施しました

十月三十日に、宇都宮大学教育学部附属幼稚園で中堅研第五日を実施しました。午前中は、「教育課程と子どもの姿のつながり」をテーマに年長組の保育参観と保育研究を行いました。子どもが夢中になって遊んでいる姿から学びを見取り、教育課程や指導計画にどのように反映されているのかを確認しました。午後は「教育課程の実施と評価」について、実際に教育課程の見直しを図った足利短期大学附属幼稚園、第二ひかり幼稚園、認定こども園あかみ幼稚園の受講者の先生に内容と方法を発表してもらいました。各園の工夫を凝らした実践は大変参考となるものでした。

受講者は「他園の情報を得て、自園が取り組まなければならないことが明らかになりました」「教育課程の見直しは難しいことではなく、日々の保育とつながっていることが理解できました」など、教育課程を評価する必要性を改めて感じていたようでした。教育課程の評価等に積極的に関わろうとする受講者の意欲にエールを送りたいと思います。

幼児期の特別支援教育研修 第二日を実施しました

十一月十二日に、実践報告書を持参してもらい、第二日を実施しました。実践報告書は、第一日の研修を通しての気付きを基に保育実践し、そのエピソードや考察をつづってもらったものです。「視点のチェンジ」をテーマに実施していますが、今年も多くの「視点のチェンジ」が集まりました。

五人一グループで報告・協議を行うことで、新たな気付きが生まれ、広がり、視点のチェンジも深まっていきました。二日間を通して指導いただいている宇都宮大学の司城紀代美先生からは、子どもの育ちを長い目で捉え、話し合うことの大切さや、そのことを通して、わくわくした気持ちになれることの素晴らしさなどについて、助言をもらいました。

研修を通して、少しでも悩みが晴れ、明日からの保育に楽しい見通しが持てることを期待します。

文部科学省主催「中央協議会」に行ってきます！

平成三十年十二月十三日（木）
十四日（金）

（発表者）
野崎幼稚園認定こども園　山越美夏先生
（参加者）
認定こども園東光寺幼稚園　毛塚千明先生
那須烏山市立つくし幼稚園　黒﨑明子先生
足利短期大学附属幼稚園　武井　綾先生

平成三十年度 栃木県教育研究発表大会のお知らせ

平成三十一年一月二十六日（土）
九時三十分～十二時

《幼小連携部会》
テーマ「豊かな学びを保障する接続期のカリキュラムとは？」
実践発表「那須町の挑戦～カリキュラムを一緒につくろう！～」
那須みふじ幼稚園　松浦　恵美子副園長

★那須町大同保育園、那須町立田代友愛小学校、那須町教育委員会も一緒に発表します。
★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！

こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等を御報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

運営費補助金における処遇改善加算の実施について

幼稚園教諭の人材確保のため、通常のベースアップを超える処遇改善を実施した私学助成園に対し助成を行います。詳細については別途文書でお知らせします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園等の耐震化率は、平成二十九年四月一日現在で八十五・三%ですが、全国平均八十八・四%と比べ、依然低い数値となっています。

平成三十一年度においても引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

平成三十一年 一月～三月までの事業計画

1月15日 ※幼稚園教職5年目研修
1月18日 設置者・園長研修会
1月18日 ※幼小連携推進者養成研修
1月22日 0・1・2歳児研修
2月5日 ※スキルアップセミナーⅡ
2月8日 ※幼小連携推進者養成研修
2月9日 資質向上研修
2月13日 設置者・園長研修会
※は幼児教育センター事業

慶事

●宇都宮地区　十月二十七日
認定こども園まこと幼稚園
創立五十周年記念式典

●宇都宮地区　十一月二日
松ヶ峰幼稚園創立八十周年記念式典

●宇都宮地区　十二月十五日
ひじり認定こども園落成式

訃報

●宇都宮市　めぐみ幼稚園
前園長　中臣　昭範　先生
平成三十年十月二日　逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

新職員紹介

十月十六日より当事務局職員として宮下彩さん(27)が採用されました。何かと不手際な点もあると思いますが宜しくご指導下さいますようお願い致します。

編集後記

過日、久しぶりに会った友人が「ここ数日、ストレスで食欲がなく夜も眠れない」という話をしていました。私はその話を聞きながら、以前新聞のコラムに載っていた「インゲンは適度なストレスで、収穫量が二倍になる。」という話を思い出していました。

インゲンのツルは元来右巻きだそうですが、それをむりやり真っすぐに伸ばしたものと強制的に左巻きにしたものの三タイプを準備し、収穫量を比較したそうです。その結果、真っすぐなものは右巻きの一・五五倍、左巻きはなんと二倍もの収穫があったというのです。つまり、ツルの巻き方を自然の状態とは逆にするほど収穫量が多くなるということが分かったというのです。

このことについて専門家は『インゲンに適度なストレスがかかったことで光合性が活発になったからだろう』と、分析していました。

でも、これは子どもにもいえることかもしれません。何の束縛もなく本能任せのお気楽な状態よりも適度な緊張や試練に立ち向かう方が成長できるということです。しかし、成長に合わせてツルを逆巻きにするのは手間のかかる大変な仕事です。この厄介な作業は、親や保育者の役目です。その役目を負わされた人たちが手間ひまを惜しむようなことをしていたら収穫量は期待できないということでしょう。ひょんなことからニンゲンがインゲンに教わった有難い話でした。

最後になりましたが、今回もまた多くの皆様のご支援、ご協力により一三五号が発行できましたことに感謝申し上げます。

（きぬ川幼稚園　阿久津恵子）